



Myojo



明星学園小学校

学校案内パンフレット



MYOJO GAKUEN ELEMENTARY SCHOOL

一人ひとりの成長のために、
豊かな出会いを用意しています

幸せとは自分らしい生き方をすることです。

自分らしさを形づくるために、体験を重ねる場が学校です。

子どもたちが持っている高い学習意欲や好奇心を

失うことなく知性を磨きます。

At Myojo, we work to support and nurture each and every student we teach.
We strive to create a learning environment rich in knowledge and opportunity.

*As teachers, we believe every individual's path to happiness is unique and must be discovered through learning and exploration.
We are passionate about education, encourage enthusiasm and curiosity, and aspire to help our students become the best people they can be.*



明星学園小学校

自ら考える子どもを育てる

Myojo

どの子どもたちも生まれた時から、

知りたがり × やりたがり × 話したがり × つながりたがりです。

このように、もともと備わっている学習意欲や

好奇心、探究心と旺盛な自己成長力を大切にして

“自ら考える子ども”を育てます。

明星学園小学校で身につける4つの力

We aim to develop four core skills and values in all our students:

自然から学ぶ力

A respect and love of nature.

明星学園小学校は豊かな自然に恵まれた環境の中にあります。身近な動植物との出会いは「いのち」を学ぶ機会にもなります。「みいつけた」という活動を通して自然を観察していく視点も養います。

表現する力

The capacity and desire to express oneself and communicate with others.

人は受信と発信を繰り返しながら新しい自分を発見します。学んだことを自分なりにつくり変えることで作品は生まれます。友だちの表現にも学びます。

考える力

The ability to think critically and creatively.

「なぜ?」と疑問に思うことを追求します。納得した知識が未知の課題に挑戦させてくれます。心の冒険をするのです。考える力と、学び方を身につけます。何でも言い合うことのできる友だちの存在は大きいのです。

社会を創る力

To equip our students with the tools needed to become productive and valued members of society.

仲間と協力して仕事を成し遂げる自治の力を育てます。授業でも行事でも、話し合うことで自分の意思を相手に分かりやすく伝える練習を積み重ねます。

個性を尊重し その開花をめざす学校

学校は子どもを「見つめる」「見つける」「見守る」
3つの目を持つところ

照井 伸也 明星学園小学校 校長
Shinya Terui Principal

見つめる（受容する）

明星学園は、子どもたちの心の奥底にある「伸びたい」という気持ちを大切にします。その「伸びたい気持ち」を信頼して、子どもたちが、自己肯定感を持てるようにしていきます。そして、困難に出会うときには、さらによりよい自分を探究できるように、「自分を大事にするっていうことはどういうことかな。」と「かけがえのない自分」を見つめる教育を大事にします。

見守る（自律・自立支援）

明星学園は、子どもたちの「自分で」やりたい気持ちを大切にします。そのやりたい気持ちに寄り添いながら、「自分で考えてごらん」「友だちの意見を聞きながら自分で考えをまとめてごらん」と、自分で考え、表現できるように温かく見守る教育を大事にします。明星学園がめざす教育は、子ども自身が本来持つ「自己教育力」を何よりも信頼しているのです。

見つける（支援）

明星学園は、一人ひとりの子どもたちの良さを発見する教育を大事にします。子どもたちが本来持っている「知りたがり×やりたがり×話したがり×つながりたがり」の知的好奇心や冒険心を大事にしながら「〇〇さんは、こんなところが素敵だね。」とその良さを発見し、子どもたちの生活世界が広がるように支援していきます。

また、時々にある失敗やトラブルは、子どもたちを成長させる大切な宝物であることに気付かせ、そこからたくさんのことを学べるように支援します。

個性の尊重とその開花の教育

明星学園の教育は、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたち相互の豊かな個性の交わりを支援しながら、共に自分らしさを探究し開花させていくところ（人格を形成していくところ）に大きな特色があります。

それが、子どもたちの「いま・ここ」を大事にし、「あした・そこ」に向かう生きる力を培う本物の教育だと考えているのです。

その原動力が、自由に生きることへの希求であり、そのための自主・自立の精神だと考えているのです。



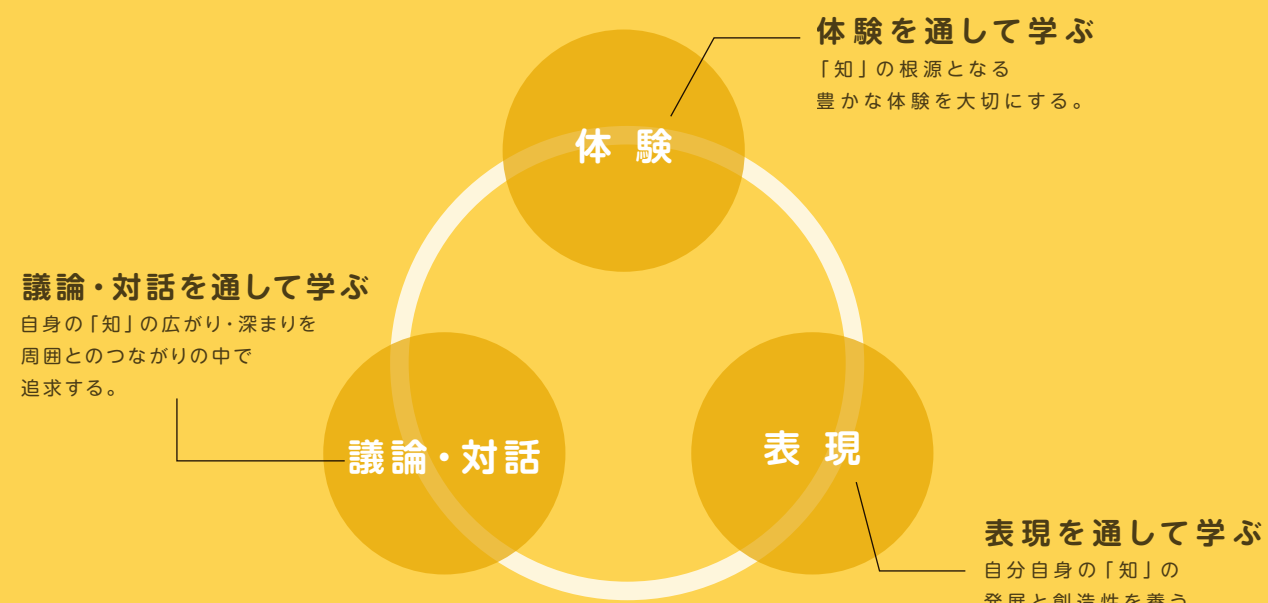
明星学園小学校で育まれた
知性と感性は、
人生を創る基盤となります。



「体験・対話・表現」を通して学ぶ授業づくり

Learning through experience, discussion and expression

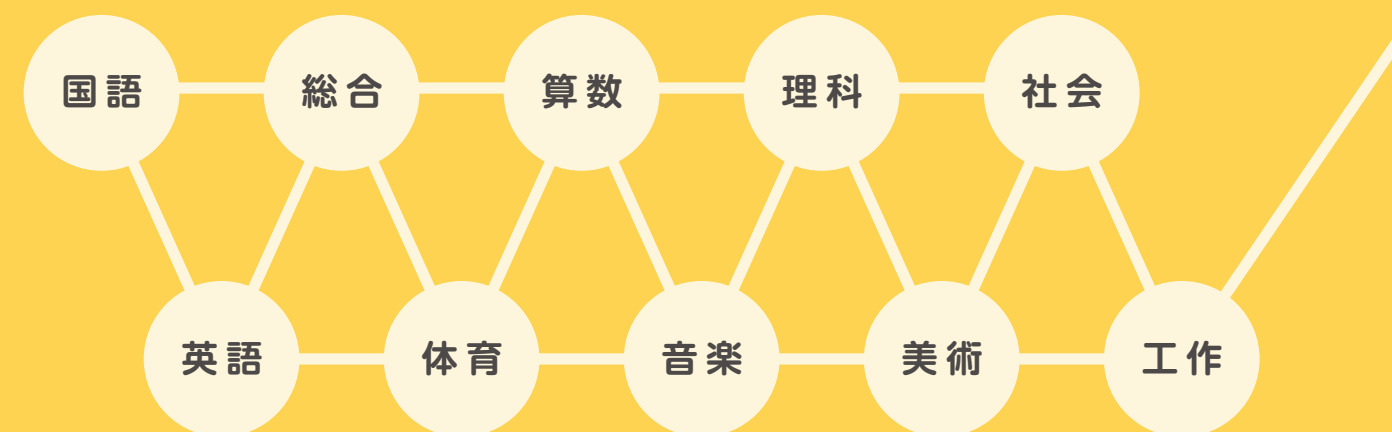
知識が自分の外からやってきて通り抜けていくのではなく、
対象に積極的に働きかけ、対象から働きかえされながら知識を生み出します。
また、自分の考えや感じたことを発表し、
お互いに「受信と発信」を繰り返すことで学びを広げ深めていきます。



10の教科が響き合う豊かなカリキュラム

Integrated progressive curriculum

明星学園のカリキュラム（教育課程）は、10種類の教科からなっており、
それぞれの教科で関連性を十分検討し、教科内容は形づくられます。
各教科の授業内容が体系的に進行しているので、
6年間を通じ、子どもたちが確かな内容を無理なく学ぶことができます。



体験

Experience

体験することの背景にある
歴史や文化、自然を知る

Bringing history, culture and nature to life

明星学園小学校では“本物に触れる”“実際にやってみる”といった「体験」を大事にしています。実際に見たり聞いたり働きかけたりすることで、子どもたちはものごとを深く理解します。さまざまな教科で「ものづくり」をしますが、これを通して、先人の営みを追体験します。そしてその背景にある様々なことを感じとる扉が開かれるのです。それこそが「体験」を通して、よりリアルなイメージを体感することなのです。

2年生「総合」の授業で行なわれた「藍染め」の様子。種をまいて育てたアイの葉をたたいて青い色があることを知ります。そして、Tシャツを藍で染めます。きつく巻いた輪ゴムをはずすと、白い模様があられ、植物から色をもらった。自分だけのTシャツができ上がります。

五感を通して、実験を通して

文章に“大きな木”と書いてあっても、その大きさをイメージすることは難しいのかもしれませんが。また“大変な作業”と言われても「そうなんだ」という一言で片付けてしまうかもしれません。

しかし、実際に木を見上げ、その大きさに心を動かされれば、そのイメージはしっかりと頭の中に刻まれ、実際に同じ作業をしてみれば、その辛さや過酷さも、身をもってわかるはずです。

本に書いてあることや、人の言葉にどれだけリアルなイメージを持つことができるのか、そこに「体験」の必要性があるのです。

教室で行う授業でも「体験」は可能です。理科の授業でアブラナを注意深く観察すれば、花の中心にあるめしべがやがて種になることがわかりますし、その時に感じるアブラナの色や形はもちろんのこと、匂いや触感なども獲得することができるでしょう。



羽村見学



羽村見学



矢じりづくり



矢じりづくり



貝塚見学



貝塚見学



6年生理科「動物と食べ物」の勉強で上野動物園へ動物観察に行きました。キリン舎の前で解説員の方から動物観察のポイントを教えてもらっています。

本物を体感する 自ら歴史の目撃者となる

羽村、大島、奈良といったその地に行かなければ臨場感の得られないものもあります。東大寺の大仏がどれだけ大きいのかということを学習してはいるものの、実際に目の前の座っている大仏を見れば、やはり大きいのです。また三原山の火口から未だに水蒸気が上がっているのを見れば、火山の島なのだということは、鮮明に理解できます。このように明星学園ではできるだけ現地に行き、実際に自分の目で見えることを大切にしています。

現地で建造物や出土物にふれ、様々な体験をすると、新たな疑問も生じます。その疑問が日常の授業にフィードバックされ、さらに授業を深めていくことになります。

例えばクラスで縄文土器を作ると、中にはとても苦労して作っている子がいます。しかし縄文時代、みんなが土器を上手に作ることができたのでしょうか。中には不得手な人もいたでしょう。そこで子どもたちは、きっと専門的に土器を作る人がいたのだと予想します。そう予想することが、その後の社会の発達を考える時の助けとなるでしょう。「体験」を通して学ぶ事にはそのような利点もあります。



土器づくり



対話

Discussion

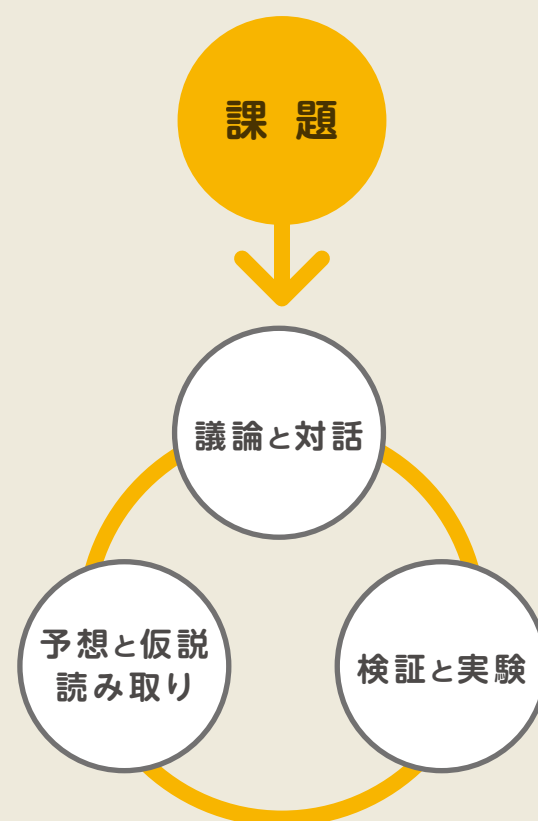
コミュニケーションを通じ、
相互理解を深める
Understanding by communicating

授業は、挙げられた課題に対して自分の予想を持つことから始まります。そして、なぜそのように考えたのかを友だちに伝えます。一つの課題に対して複数の考え方が発表されます。友だちの考え方を聞き合うことにより、それまで自分では持ち得なかった視点を手にすることもできます。この様に議論は、教科により検証の方法は様々ですが、本質へ迫る大切なプロセスです。そして同時に、クラスメイトを人として深く理解し合う語り合いの場でもあるのです。

「答えを覚える」のではなく、
「探求する姿勢」を学びます。

どの教科でも系統的に用意された課題に対して子どもたちはまず、予想として自分の考えを持ちます。国語ならば、ある部分についての読み取りになります。それについて、子どもたちは理由をもとにそれぞれの意見を出し合います。こうした議論を通じて、自分の持ち得なかった視点を持ち、より客観的な内容に移行していきます。

こうした議論は正に子どもたち同士の対話であり、お互いを理解し合う場にもなります。最終的には、実験などの客観的な手法により議論は決着し、同時に自己を振り返ることになります。



絵本を使った授業

低学年の国語では、本物の絵本を手にして授業を行います。語彙も生活体験も十分ではない子どもたちには文章だけを頼りにするのはではなく、絵からもたくさんことを読み取らせたいからです。

上の絵は「スーホの白い馬」の一場面、小さな白馬が羊を守ろうとして、狼に立ち向かっているところです。子どもたちはこの絵から分かることを次々に発表します。

「白馬より狼の方が大きくて強そう」

「白馬は後ろ足で立ち上がり、必死に戦っている」

「狼の目は赤く、口は裂け、歯がむき出しで怖い」

絵は雄弁です。文章だけでは伝わらない迫力を感じます。教科書の挿絵などでは不十分で、やはり赤羽末吉氏が情熱をこめて描いたこの絵だからこそです。

『スーホの白い馬』モンゴル民話 大塚勇三 再話 赤羽末吉 画 福音館書店



ところで、この場面には主人公のスーホが描かれていません。そのことに気付いた子がおり、その理由を考えることで、授業が盛り上がります。

「飛び起きて、かけつけている途中かもしれない」

「羊の囲いの左側にいるので、絵からは外れている」

「スーホは手前にいる。これはスーホの見た様子」

子どもたちの感性は鋭いです。この場面がスーホの視点で描かれていることまで読み取ったのです。

理科の授業

話し合い、予想、実験で
自然の法則を検証する

4年生の「温度による体積変化」に続き、5年生では物が固体・液体・気体に変化する現象を扱います。

水が100℃で沸騰して気体になること、水が0℃で凍ることは知っています。でも、その他の物質はどうでしょうか。液体の酸素が存在すると思うでしょうか。授業では色々な物質の三態変化を実験に実験で見せながら、粒子的なこと（分子の状態変化であるということ）をイメージできるように進めていきます。

このような意見交換により、子どもたちは実験を見る視点を獲得していますから、細かな部分を見逃しません。また、結果だけを受け入れるのではなく、どうしてそのような現象が起きるのか、次の課題へつながりを持って考え始めます。

物質の三態変化の授業【5年生理科】

エチルアルコールだけを入れた風船（空気は入っていない）に熱湯をかけると、風船は大きく膨らみます。よく見ると中が透けて「空間」が出来ているのが分かります。この現象を見て、子どもたちは色々なことを考え、意見を交換し始めます。

- 教 師 さて、この風船の中ではどのようなことが起きているのだろうか？
- 児 童 A 風船の中は、エチルアルコールだけしか入っていないから、エチルアルコールが熱湯に温められて膨張したと思う。
- 児 童 B それにしては、大きすぎると思う。だって、液体の膨張は目に見えないくらいしか変化しなかったはずだよ。温度計の中がたしかアルコールでしょう。あれは、細いガラス管だから目に見えるようになっていたはず。
- 児 童 C あの（風船の中の）空洞の部分がなにか分からない。
- 児 童 D 風船に空気が入ったんじゃない？
- 教 師 空気は先生が抜いて入れたから、ほとんど入っていないはずだね。
- 児 童 E だったら、何だろう？
- 児 童 F アルコールだと思う。
- 児 童 G え？
- 児 童 H 水みたいに風船の中のアルコールが気体になったんだと思う。
- 児 童 I でも100℃になってないよ。
- 児 童 J きっと、アルコールは低い温度で気体になる。だって、注射の時とか、スーとするでしょう。
- 児 童 K たしかに、アルコールは蒸発しやすいかもしれない。その意見に変更する…

綴る

Writing

自分自身で発見し
その感動をことばに変換する

Learning to express your thoughts

“綴る”とは、自らが積極的に働きかけることによって得られた知識や感動がないとできません。国語以外の教科や教科外活動においても、子どもたちが積極的に働きかけることができ、“綴る”に値する対象を厳選しています。すると子どもたちは自然や社会のできごと、あるいは様々な文章などに対して、感じたことや、わかったことを一つひとつ言葉に変え、ていねいに綴ります。自身の中に対象への心の動きがあるので、魅力的な文章を綴ることができるのです。このような経験をくり返すことで、子どもたち自身で積極的に対象を見つけ、自分の考えたことを表現する、つまり“綴る”ことができるようになっていきます。

自然から見つける 毎日の小さな驚きを大切に

子どもたちの毎日は小さな発見であふれています。校庭や公園の草むら、家のまわりで、子どもたちは大人が忘れた“驚きの世界”を楽しんでいます。

そんな子どもたちの“驚き”の発表の場である「みいつけた」は、低学年の毎朝の日課です。みつけたことをクラスで発表し、それについて話し合います。

身の回りのさまざまな自然に目を向け、見る・聞く・触れるなどの五感を通じ、頭で考えることは、学習の基本となり、各教科につながります。対象をよく観察し、自ら働きかけることでより深く理解することは、“綴る”の基礎となるのです。

例えば総合の授業で、水の入ったコップの中に角砂糖を静かに入れ、その角砂糖が溶けていく様子をじっくりと観察させますが、その後に綴った文章は、様子をよく捉え、心の動きもよく表現されています。なぜならそれは、溶けていく様子に感動があるからであり、子どもたちはそこで見たことを長い間忘れないでしょう。



対象を見る視点を獲得し、 興味の世界を広げる

低学年では自然に関することが主な対象となりますが、それらを綴る際には、視点が大切になります。大きさ・色・形というように、その対象について綴る際、何が大事なのかを考え、対象を切り取る視点が必要になるのです。最初は抜け落ちてしまう視点もありますが、発表や綴ることをくり返すうちに、しっかりと視点が持てるようになります。

中学年になると対象となる世界が広がり、日常生活や社会のできごとなども興味の対象となります。世界が広がることによって、綴る対象も自分らしく広がっていきます。



日常の出来事を文に綴り、 自分の言葉を読み手に伝える

卒業時には集大成として、全員が卒業論文「12歳の主張」をまとめます。自分が小学校の6年間で広げていった世界の中で、一番綴りたいと思うものをテーマにします。自分の発想に基づく主張を、自分の考えた言葉で、読み手に伝えられる作品にするのです。ここでは読み手を意識して綴ることも大切になってきます。

壁新聞の制作 社会科

子どもたち一人ひとりが 新聞記者になり、新聞にします

4年生から始まる社会科では、実際に現地に行き、子どもたち一人ひとりが手で触れて、肌に感じながら体験する機会を多く設けています。博物館などの見学も多く、通常の学校では30分程度の見学で終わってしまうところですが、2時間ほどかけてじっくりと取材をすることができます。授業で学んできたことを実際に確かめたり、まだ知らなかったことを関連づけて理解したり、子どもたちの瞳が輝きます。

右の壁新聞は、大島への見学旅行をまとめた大島新聞（上）と、奈良への修学旅行をまとめた奈良新聞（下）。現地で自分が関心を持って学んだことを、人に伝えるために、一人一枚の大きな紙にまとめます。他人に分かりやすく伝えるためには、対象に対する深い理解と高度な表現が必要になります。





ノート

Note-taking

世界に一つしかない
自分だけの教科書をつくる

Organizing what you've learned

ノートは、ただ黒板を写し取るためだけの物ではありません。ノートには授業での課題に対して、まず自分の予想と理由を書きます。その後、友達の意見と理由や考察・結果などがまとめられます。つまり、子どもたちは授業のたびに「ミニレポート」を作成するのです。これが、明星学園小学校のノートです。

算数（4年生）のノート

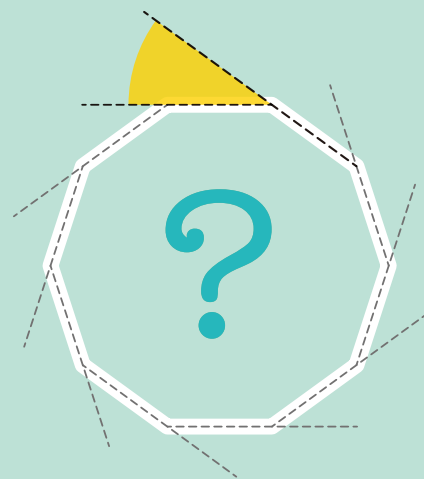
正十角形の外角は何度だろう？

明星学園の算数の授業では、外角を用いて多角形の性質を解き明かしていく授業を行います。外角の意味や外角の基本的な作図方法を学ぶ過程で「どんな凸多角形でも“外角の和”は360°である」という法則を発見していきます。

このように自身で行う「作図（実験）→仮説→作図（実験）」という流れの中で、自分の考えや疑問点を明確にしていきます。

そして、ある段階からクラス全員で議論が展開され、「凸多角形の外角の和はどんな凸多角形でも360°になる」ことが明らかになります。

そのような流れも「ミニレポート」としてノートにまとめます。自分の考えをまとめ、真実を探る手段を学んでいくのです。



ノートに書かれた意見その①

外角を30°で正十角形を書いてみたら最後の頂点ですぐずれた。今度は35°で書いてみたら微妙にずれた…。これは誤差なのかな…？

自分で作図してみたい図形に挑戦しながら、課題を見つけます。

ノートに書かれた意見その②

四角形（正方形）の外角の和は、 $90^\circ \times 4 = 360^\circ$ 、五角形の外角の和は $72^\circ \times 5 = 360^\circ$ 、正六角形の外角の和は $60^\circ \times 6 = 360^\circ$ だったので、正十角形の外角は、 $360^\circ \div 10 = 36^\circ$ になっているはず！

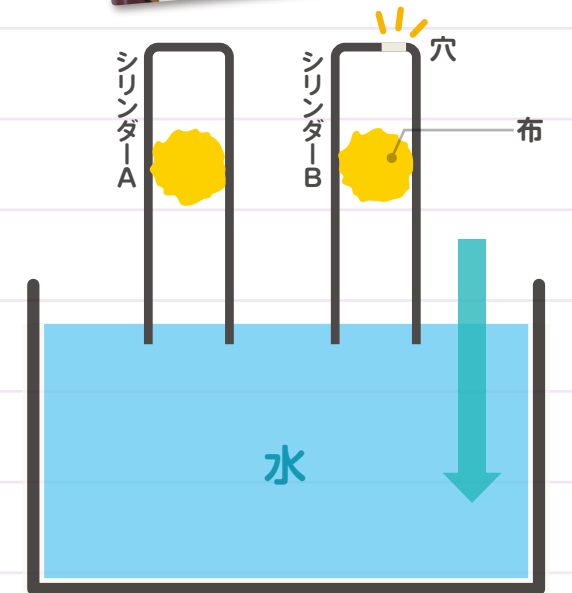
自分の仮説を立て、その理由、きっかけなどをノートに書き出します。

理科（4年生）のノート

「空気」の授業



図のようにメスシリンダーを水の入った水そうに入れます。メスシリンダーの中につめてある布は水にぬれるでしょうか？



実験装置を見せながら授業の冒頭でその日の課題を提示します。

① 自分の予想と理由

自分の考えとして予想を立て、その理由、きっかけなどを書き出します。

両方ともぬれないと思う。
なぜかという、この前おふろの中でバケツをぶれないようにおふろの底の方へおしていったら、バケツの中がぬれていなかったから。

② みんなの予想と理由

クラスみんなで意見を出し合い、その考え方について議論します。

両方ぬれる … 2人
Aだけがぬれる … 0人
Bだけがぬれる … 28人
両方ぬれない … 1人

→ Bのシリンダーには穴があいていて、中の空気がにげてしまって、シリンダーの中に水が入ってくるから。

③ 友達の意見を聞いて

友達の意見を聞いて、初めに自分が考えた予想を再度考え直します。また、同時に実験の視点を手にします。

Bのシリンダーには穴があいていて、そこから空気が逃げてしまう。だから、シリンダーの中の空気が逃げた部分に水が入りこみ、中の布はぬれてしまう。

④ 実験の様子と結果

実験をよく見て、見たことを正確に記述します。

最初、Aのシリンダーを水の入った水そうに入れた。そして、ぬいたら中の布は、ぬれていなかった。次にBのシリンダーを水の入った水そうに入れたら、穴のところにはったテープがゆれていた。ぬいてみたら中の布がぬれていた。

⑤ わかったこと

実験を考察します。なぜ、そのような現象が起きたのかを再度考え直します。

Aのシリンダーは、中に空気が場所を取っているから水が入って来ることができない。Bのシリンダーでは、穴から空気が出て行ってしまったから、シリンダーの中の空気が場所をとれなくなって、その場所に水が入ったから中の布はぬれた。空気は、目には見えないけどちゃんと体積があることが分かった。

表現

Expression

表現することの楽しさが、
工夫を生み、個性を形づくる

Discovering who you are

私たちはすべての教科において「表現」という視点を持っています。絵画や音楽だけでなく、書き綴る文章、朗読、レポート、身体表現であるマット運動など、学びの中で表現されるすべてがそうです。児童たちがある表現を発表し、子どもたち同士が互いの表現を認めて、そこから学んでいくことで、表現のレベルが上がっていくと考えます。そのためには、表現の機会を多く与えること、その善し悪しが正當に評価されることが重要です。そうすることで、表現することの喜びが自分のものとなり、表現力が飛躍的に伸びるものなのです。



体育

表現の喜びを感じ 新たな世界を構築する手助けを

保護者の方から「マット運動が空間表現になるなんて…」という感想をよくいただきますが、明星学園では、体育を表現方法のひとつとして捉えています。以前、鉄棒の一回転ができなかった子どもが、周りの声援によってできるようになり、その後は、さらなる技が次々とできるようになりました。表現する喜びを感じた子どもは、さまざまな場で堂々と発表するようになり、「表現は人の中でこそ成熟する」ことを痛感しました。そういった子どものすばらしい力を引き出し、新たな世界を構築させていくことが教師の役割だと思っています。

音楽

音楽の持つ美しさに触れ 共感と自己表現を育みます

上手に歌うことだけを目的にするのではなく、音楽に感動することで、表現への欲求を高める授業を行っています。子どもたちの持つ純粋な感性は、さまざまな音楽に触れる中で、歌詞やメロディーとリズムなどに反応して、その魅力をすぐに理解します。少し難しい歌であっても、高い音をだしたり、複雑な音程を歌ったときに心地よさや楽しさを覚え、さらに新たな表現に挑戦するようになります。授業を通じて、みんなと一緒に感動を共有することによって、自分自身の表現がさらに豊かなものになります。

音楽会

子どもたちの感性が 響き渡る「音楽会」

毎年開かれる「音楽会」は、音楽の時間に練習してきた合唱を、みんなの前で発表するイベントです。各学年を聴き合ったり、学年合同で合唱することで、響きあう感性を楽しみます。



朗読発表会・学習発表会

仲間とともに創り上げ、 物語の躍動感を表現

文学という芸術を深く理解し、創造力を養うために、作品を朗読したり、劇を演じるなどの立体的な表現の場を大切にしています。

国語の授業で読み取った世界を、「朗読発表会」としてクラスや学年ごとに年数回発表します。

三学期に行われる「学習発表会」では、クラスや学年で劇などを上演します。仲間と力を合わせ、自分たちの表現を全校児童や保護者の前で発表することで、表現力豊かな人間に育てます。



1年生から週2時間の 英語の授業

英語でのコミュニケーション活動を通して
自然な英語の感覚を養い、
使える英語力を身につけます。

1年生から6年生まで、全学年週2時間英語の授業を行います。日本人の英語教員やネイティブスピーカーの教員と、歌、ストーリータイム、ゲーム的な活動等を通し、楽しく英語でやりとりします。高学年からは読み・書きの活動も始まり、言語の様々な使い方をバランスよく体験します。



海外の姉妹校への短期留学

4,5年生の希望者は、春休みに12日間オーストラリアの姉妹校ウッドエンド小学校に、6年生の希望者は、冬休みに5日間台湾の東海国民学校に短期留学します。姉妹校の家庭に一人ずつホームステイをしながら学校に通い、現地の生活を体験します。



交換留学生との交流を通じて 世界を身近に感じる

毎年秋にはオーストラリアや台湾の姉妹校から留学生を受け入れます。1～6年生の家庭からホストファミリーを募り、4～6年生のクラスがホストクラスとして留学生と暮らしを共にし、日本にしながら異文化と触れ合います。



イングリッシュキャンプ

4～6年生の希望者が国内で2泊3日の英語キャンプを楽しみます。

日本にしながら、3日間料理、クラフト、スポーツなどの様々な活動を英語で楽しめます。



自由な発想を引き出し 豊かな創造力を育む

生活の中での体験、頭の中で想像したこと、目の前にあるものなどを素直に表現することは、子どもたちの心を解き放つことにつながります。また、色・形・空間の捉え方や表現方法を学ぶことで、子どもたちのより豊かな表現を引き出すことができます。美術科のカリキュラムは、「みて描く」「生活を描く」「もよう」「物語の絵」「造形・工作・その他」「鑑賞」の6つの領域に分かれており、各学年の課題に繰り返し組み込まれています。



みて描く

モチーフの特徴や感じたことなどを、色・形・質・量・空間について学びながら、対象を観察して描くもの。モチーフには、季節の野菜や果物など、学年に合ったものを選定しています。

生活を描く

自分の体験したことの記憶をもとに、想像をしながら再構成して絵画にします。子どもたちの周りの日常風景や学校行事などを描きます。

もよう

植物や動物をイメージした形や、幾何学的な形を繰り返して並べて模様にしします。合わせて、色彩の学習も行っています。

物語の絵

物語を聞いて、その世界をイメージして描きます。現実の事象に規制されない、子どもたちの想像力あふれる表現が生まれます。

造形・工作・その他

学年に応じた版画表現や彫塑、紙工作などを制作します。カッターナイフや彫刻刀などの道具の扱い方や技法を学ぶとともに、さまざまな素材に触れ、体験的に学習していきます。

鑑賞

課題内容に即した絵画集や自分たちの作品の振り返り鑑賞会などを行います。友達の作品や他学年の作品を鑑賞し、アーティストの考え方に触れ、様々な表現方法を知る機会を持ちます。

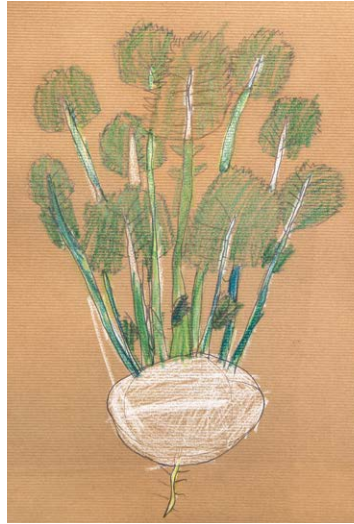
素材と道具の扱い方を学び イメージを形に

5・6年生では、美術と工作の授業を独立させています。工作の授業では数多くの素材を加工する経験を通じて、自然や物事を考える姿勢を子どもたちの中に育てます。

授業で扱う素材は、紙・フェルト・木・石・金属に至るまで様々で、それぞれが違った魅力や個性を持っています。自分のイメージを形にしていくときに、子どもたちは素材と対話しながら、自分自身とも出会う事になります。

魅力的な課題は、子どもたちの積極性を養います。ものづくりの経験を積んでいく中で、頭と手の働きを統合することで豊かな感性を育みます。





1年生「カブ」
初めてモチーフをじっくり見つめて描く課題です。



1年生「てぶくろ」
物語を聞いて心に残った場面を絵に表します。



2年生「ブラタナスの木」
学校のシンボルであるブラタナスの木を大きな紙にのびのび表現します。



3年生「紙版画・ロボット」
初めての紙版画ではまず仕組みを知ることが大切です。



4年生「まほろしの花」
世界に一つだけの花をテーマに想像を広げていきます。



3年生「タケノコ」
モチーフのエネルギーや迫力をダイナミックに捉えます。



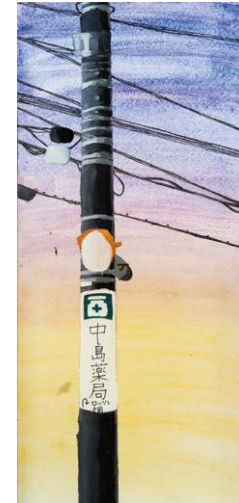
2年生「まどのあるお城」
初めてカッターを使う課題です。繰り返し使うことで思い通りに扱うことができます。



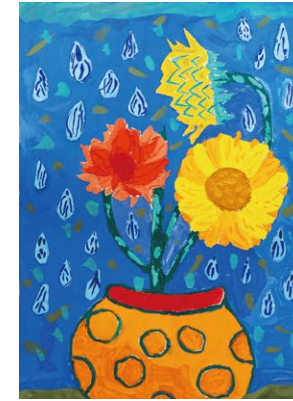
5年生「夜のジャングル」
夜のジャングルをテーマに想像を膨らませ絵に表す課題です。



6年生「卒業制作 自画像」
自分らしさをテーマに今の自分を描く鉛筆画による自画像です。



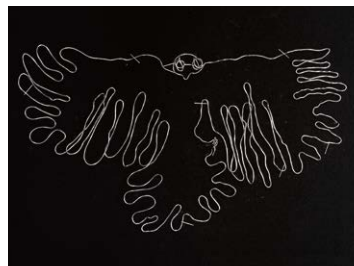
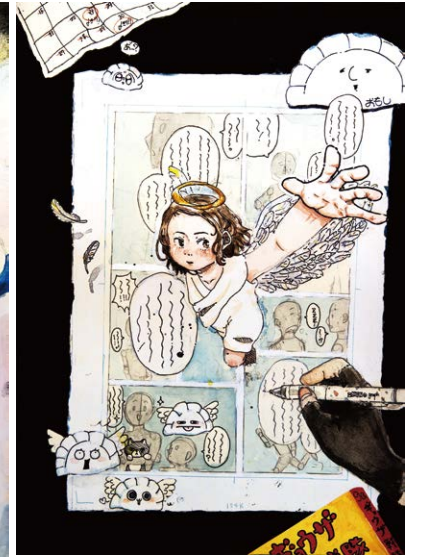
6年生「電信柱と空」
モチーフとその周りの空間を表現する課題です。



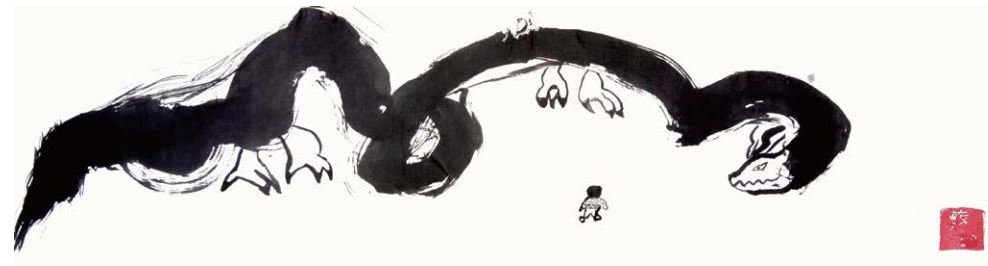
5年生「凸凹ひまわり」
ゴッホのひまわりを鑑賞し、気づいたことや感じたことを自分の表現に活かします。



6年生「卒業制作」
6年間の集大成として描く卒業制作の一つです。各自のテーマの捉え方が興味深い作品となります。



4年生「針金アート」
表したい形を針金で細やかに表現します。



4年生「龍の目の涙」
墨と和紙を使って、物語の一場面を表現する課題です。



4年生「消しゴムスタンプ」
スタンプの配置や色の組み合わせを楽しむ課題です。



5年生「自分の靴」
愛着のある自分の靴をモチーフに立体を捉えて描く課題です。

世界にひとつだけの自作の品。ものづくりを通じて“もののしくみ”や性質を学びます。



2年生 藍染め



2年生 藍染め



3年生 ナイフづくり



1年生 ポシェット（織物）



1年生 ポシェット（織物）



2年生 和紙づくり



6年生 織「フェルトのクッション」
四角いフェルトを短冊に切り、模様を再構成して織り込み、袋状にしたものに綿を入れてクッションをつくります。



6年生 卒業制作 木工作「三角彫りの箱」
卒業に向けて、一枚の板から組継ぎの方法で箱をつくり、表面に彫刻刀で三角彫りの模様（算数の線対称の学習）を施した作品に取り組みます。



5年生 木工作「木彫りのスプーン」
桜の原木を鉋で割り、ノコギリで切り込みを入れ、ノミと木槌で削ってスプーンを彫ります。堅い木材は根気よく磨くときれいな艶がでます。



6年生 金属工作「銅板で器を作る」
薄い銅板を金槌で叩いて鍛造して器をつくります。理科で学習した【金属の性質】を実体験で応用します。



5年生 織編「紐でカゴを編む」
クラフトテープを編んでカゴをつくります。たて糸とよこ糸の具合で線材が少しずつ立体になります。

発達段階に応じた 理解しやすいカリキュラム

子どもたちの発達段階を考慮し、三段階のプロセスを想定しています。

学習内容を筋道立てて吸収できるようにします。単元は「細切れ」にせず、「ひとまとまりの世界」として扱います。大切なところに時間をかけながら、効率よく学習することが可能なカリキュラムになっています。

学ぶ意欲を育む独自の教材

授業で学習すると同時に、本物の自然や文化に触れることで、子どもたちは心を動かされます。その感動は成長する中で自分自身に組み込まれ、学びの軸をつくります。小学校時代の豊かな出会いは、新しい自分の発見となるのです。

3段階のカリキュラム

1,2年生

学ぶ喜び、豊かな感性、
読む・書く・計算する力

この時期の子どもたちは、自分自身の直感や体験に多くを頼りながら、一つひとつの物事を具体的事実として認識していきます。したがって、すべての教科において五感を活用しながら学習していく方法が工夫されています。感動を伴う多くの活動や授業の中で、学ぶ喜びが形成されます。

3,4年生

考えをまとめる力、目標を持った学習、
主体的行動力、集団の中での責任感

3,4年生になると、継続的な認識が備わり子どもたちの中で「考えをまとめる力」が伸びていきます。目標をもって学習することを通し、確かな達成感が感じられるように授業を進めます。

また、子どもたちは自分のことを客観的にとらえ始めます。話し合いの場を通じてクラスの中で役割意識を持ち、主体的に行動する力をつけていく時期でもあります。

5,6年生

客観的理解力、抽象的思考力、
表現・想像力個性の発揮、
他者を思いやる気持ち

体系的な認識を獲得するこの時期には、客観的理解力や抽象的認識力を伸ばします。言語や数量、自然や社会について、系統立てた知識を得られる授業を構成しています。

表現力・構想力をつけることも重要です。行事などでは、友だちの気持ちを思いやる大切さを学び、集団の中で個性を発揮できる自信を身につけることを目標にしています。

図書室

優れた文学作品に触れ 読み込むことで心豊かに

文学作品の中で、子どもたちはたくさんの人生や物語と出会います。ですから、絵本や物語を丁寧に読むことは大切な活動です。授業の中では、美しい情景描写を味わったり、人物像を掘り下げたりして、皆の力で物語の主題を読み深めていきます。

また週一時間は図書の時間があります。明星学園小学校の図書室には世界中の良書がそろっています。1～4年生までは月一回の「ストーリーテリング」を行うことで、耳からもお話の世界を楽しみます。

優れた作品は子どもたちの心を豊かに深く耕してくれます。



明星学園小学校の一年間



大島見学旅行

伊豆大島の実際の火山を歩き、生きている地球の姿を体感します。現地の自然体験や大島焼きにも挑戦します。



夏休み自由研究作品展



修学旅行

1400～1300年ほどを遡る歴史の旅をします。田園風景の中、遺跡をたどる明日香村。歴史的建造物をめぐりながら太古の時代の建造物や仏像から、遙かな時代を想像します。



運動会

中学校と合同で4色のチームに分かれて開催します。子どもたちそれぞれが主役となってつくりあげます。



卒業式



音楽会

学年ごとに練習した作品を発表します。各学年を聴き合い、響き合う感性を楽しみます。



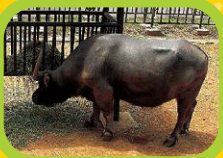
鑑賞教室



春の遠足



入学式



4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

新入生歓迎会

全校児童が集まって、各学年の出し物で新入生を歓迎します。

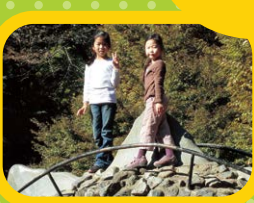


夏季生活

4・5・6年生は自然豊かな千倉町で海水浴や昆虫採集、魚釣り、天体観測などさまざまな体験をします。



秋の遠足

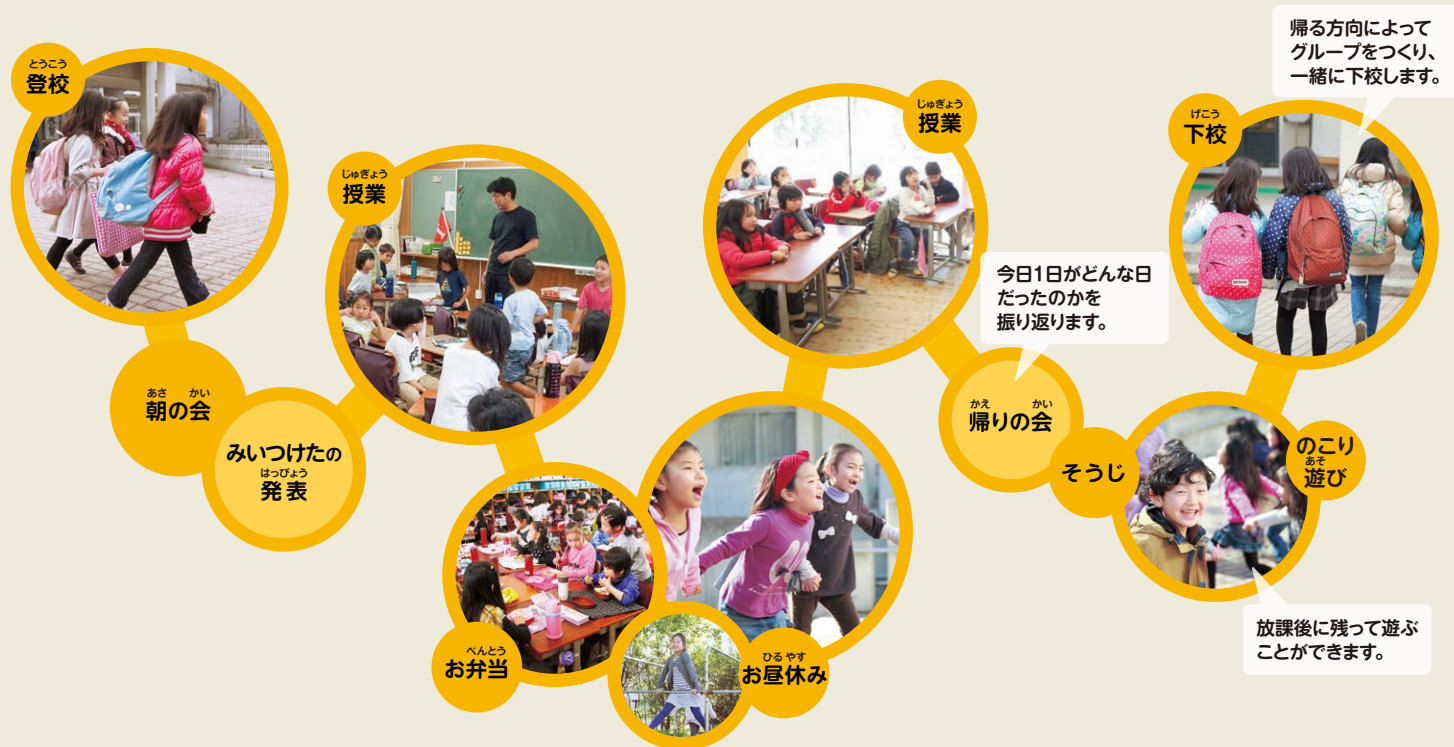


学習発表会

子どもたちの一年間の成長を発表する場です。一人ひとり個性を発揮します。



1年生の1日の生活



教科の編成と週当たりの授業時数

子どもの成長と発達の段階を考え、それぞれの段階に対応した学習活動を編成しています。

1年生 [合計23]	国語 1 2 3 4 5 6 7							算数 1 2 3 4				総合 1 2		音楽 1 2 3			体育 1 2		美術 1 2		英語 1 2		特活 1					
2年生 [合計23]	国語 1 2 3 4 5 6 7							算数 1 2 3 4				総合 1 2		音楽 1 2 3			体育 1 2		美術 1 2		英語 1 2		特活 1					
3年生 [合計25]	国語 1 2 3 4 5 6 7							算数 1 2 3 4 5					総合 1 2		音楽 1 2 3			体育 1 2 3			美術 1 2		英語 1 2		特活 1			
4年生 [合計28]	国語 1 2 3 4 5 6						算数 1 2 3 4 5					理科 1 2 3 3.5			社会 1 2 3 3.5			音楽 1 2		体育 1 2 3			美術 1 2		英語 1 2		特活 1	
5年生 [合計29]	国語 1 2 3 4 5					算数 1 2 3 4 5					理科 1 2 3 3.5			社会 1 2 3 3.5			音楽 1 2		体育 1 2 3			美術 1 2		工作 1 2		英語 1 2		特活 1
6年生 [合計29]	国語 1 2 3 4 5					算数 1 2 3 4 5					理科 1 2 3 3.5			社会 1 2 3 3.5			音楽 1 2		体育 1 2 3			美術 1 2		工作 1 2		英語 1 2		特活 1

◎1～3年生の【総合】は【生活科】の内容を含みます。4年生からの【理科】と【社会】につながります。

クラブ活動について 4年生から

自分の興味に応じて、自由参加のクラブ活動に取り組んでいます。

- 室内スポーツクラブ
- ボールゲームクラブ
- アウトドアクラブ
- ドリカムクラブ
- 美術・工作クラブ
- 図書クラブ
- 演劇クラブ
- 音楽クラブ
- サイエンスクラブ
- ダンスクラブ
- 日本の芸能同好会
- ものづくり同好会
- 剣道同好会

◎活動するクラブは、年度毎に変更の可能性があります。



保護者インタビュー

明星学園を選んだきっかけや、興味深く感じた部分を語っていただきました。

あらゆる子の可能性を耕してくれる専門店

竹田さん (高校2年生, 中学3年生, 小学6年生)

明星学園は「子どもが真ん中にある学校」。自分で考えた意見を持ち、先生や周りの子たちから一人の人間として対等に接してもらえる場所です。

実際に来てみると、教室の雰囲気や先生の人柄、子どもたちの様子から、感じ取っていただけたと思います。私自身、説明会などを通じて明星学園の魅力を体感し、「求めているのはここ」だと直感しました。

通わせている3人の子たちは個性が全く異なりますが、それぞれが自分らしく成長していると感じています。家で子ども達のやりとりを見ていると、問題解決力の高さに驚いてしまうことがあるほどです。

「こういう子に合っている・合っていない」ということはなく、

あらゆる子たちの土台を耕してくれる学校、らしさや得意を強くしてくれる学校だと思います。

福田先生(前校長)は「明星学園は専門店なんです」とおっしゃっていました。専門店だからこそその魅力・品ぞろえ、どんな子にも成長がある——腑に落ちる言葉でした。

明星学園で耕してもらったからこそ、将来種を蒔いたときに、驚くべき成長が得られると思います。日々の体験に、成長に、子どもも親もたくさんの驚きがあるはずです。



自分らしくありながら本質的な学びを

山田さんご夫妻 (中学2年生, 中学1年生, 小学4年生)

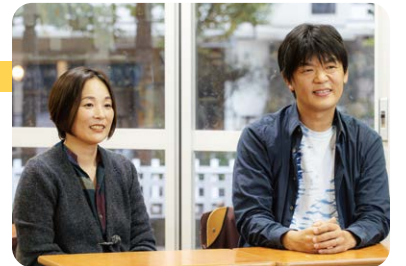
親として驚きなのが、我が家の子全員が「学校が好き」と言い続けていることなんです。子どもたちにとって学校は、家にいるかのようにのびのびと過ごせる場所のようです。子どもたちのその子らしさを大切にしてくれる先生の存在、子どもたちの中にあるお互いを尊重する文化が影響していると思います。押し付けのあるべき像やルールがなく、自分らしくいてもいいんだと思える雰囲気。否定されないから失敗を恐れず挑戦的でいられます。

こういった姿勢は授業からも感じます。算数の授業だけれど理科の知識を使ったり、美術の経験を活かしたり、正しい答えの出し方よりも、自分の頭や手を使って、自分なりに問題の解き方を考える過程を尊重していると思います。縄文時代を学ぶために土器を作る授業は特に印象的でした。授業を経て娘はすっかり縄

文時代にハマリ、自発的に学校外の講座に参加しに行ったほどです。考古学者の方にマニアックな質問をして驚かされていました。

こういったことが教科の枠を越えた本質的な学びであり、社会に出たときに必要になる課題解決力につながるものだと感じます。

小学校の時期は単に知識を積むことよりも、「学ぶことが楽しい」「おもしろいからもっと知りたい」という、自分の頭で考えることが自然とできるような土台を作ることが重要なのだと思います。



子どもたち・先生・保護者全員に学びへの高揚感がある

岩田さんご夫妻 (高校1年生, 中学1年生, 小学4年生)

子どもたちに入学して何が良かったか訊くと「先生に何でも話しやすいこと」と答えてくれました。長男はマイペースで個性的、次男は物静かだけれど粘り強い、三男は活発ながらも慎重だったり、うちの子はみんな個性がバラバラなのですが、全員が先生とのやりとりに大満足。「生まれ持った個性を尊重させたまま学ばせられる環境がないか」と考えていたところ明星学園に出会ったので本当に良かったです。先生と子どもたちが人として対等な立場、かつ近い距離でコミュニケーションを取れるのでどんな子にも合う学校だと思います。

また、子どもたちは「全科目が好き」とも話しているんです。豆から育てて豆腐を作る授業や砂鉄から鉄を作る授業、ホタルを見に行くイベントなど、なかなかできない体験を与えてくれます。

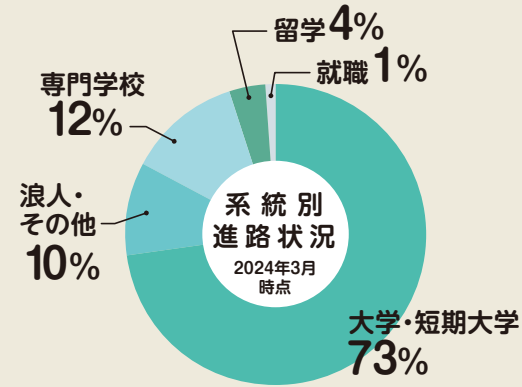
普段の生活の中で、子どもたちの口から学校で学んだことがずっと出てくるタイミングがあって驚くことも。机の上で教科書を開くだけでは得られない学びがあります。

大切な成長期にたくさんのことを吸収・体験でき、その中で「これをしたい」という自発的な思いが生まれたら、それを実現させる力を育ててくれる学校です。子どもが学びを楽しんでいると、親も盛り上がってくる。入学を検討している方にはぜひ、先生や子どもたち、保護者の皆さんといった明星学園という学校全体の雰囲気を見てもらいたいです。



明星学園のもつ多様性は、 自身の可能性を広げようとする気持ちを育てます。

明星学園高等学校では、多様な選択授業が設けられています。
基礎的な学力を身につけながらも、知識偏重に陥らぬ授業の取り組みを心がけることにより、自らの関心や適性に応じた進路の選択を促す指導を行っています。また、生徒の興味関心が多岐に渡っていることもあり、卒業後の進路は多様なものとなっています。多くの生徒が大学進学を中心に、各自が高校での学習を活かした進路決定を行っています。



高等学校卒業後の主な進学先（2024年度）

国公立大学

一橋大学
東京外国語大学
東京藝術大学
東京学芸大学
東京都立大学
北海道大学
信州大学
埼玉大学
弘前大学
筑波大学 他

私立大学

早稲田大学
慶應義塾大学
上智大学
東京理科大学
明治大学
青山学院大学
立教大学
中央大学
法政大学
国際基督教大学
立命館アジア太平洋大学
学習院大学
同志社大学
立命館大学
成蹊大学
成城大学
明治学院大学
武蔵大学
國學院大学
日本大学

東洋大学
専修大学
東京経済大学
津田塾大学
日本女子大学
東京農業大学
東京薬科大学
北里大学
星薬科大学
日本体育大学

国立音楽大学
洗足学園音楽大学
昭和音楽大学
武蔵野音楽大学
多摩美術大学
武蔵野美術大学
東京造形大学
京都芸術大学
東京家政大学 他

よくある質問

保護者の方からいただいた質問の中から特に多い質問を紹介します。

● どの様な子を求めていますか？

想像力、発想力を高め、個性を伸ばすための教育をしています。小さな発見を喜べる子どもらしさをもっていて、ひとつのことに粘り強く取り組むことができる子どもを求めています。

● 英語の授業について

公立学校では外国語活動・英語の授業は3年生からですが、明星学園小学校では1年生から、日本人教師とネイティブ教師が協力して行う「チームティーチング」を週2時間実施しています。校内で留学生との交流もあります。

● スクールバスはありますか？

ありません。
最寄り駅は京王井の頭線 井の頭公園駅です。JR三鷹駅からのバスを利用することも可能です。小学校の目の前のバス停「明星学園前」まで、所要時間は約12分です。

● カリキュラムの特色は？

必要な時期に、必要なことを教えられるよう、教師自作の教材などを使って、独自のカリキュラムを組んでいます。もちろん、小学校で必要な内容は全てカバーしています。

● 入試について

[A入試(第一志望)]、[B入試(一般)]ともに“からだ”を使った活動、ことばを使った活動、あそびを通じた活動、親子面接を行っています。[A入試]で体調を崩すなどした場合、または、受験できなかった場合などに[B入試]も受けることができます。

● 制服はありますか？

ありません。
洋服も子どもたちの個性を反映するものです。自由な動きやすい服装で来校ください。

● 学校参観はできますか？

できます。説明会に設定された日以外でも、お電話にて予約を承ります。その他の行事も参観して頂けますが、混雑が予想されますので、事前にお電話にて予約を受け付けています。

● 防災対策について

明星学園小学校、中学校高等学校の敷地は三鷹市の避難所になっています。また、東日本大震災以降、防災備品の充実もはかりました。WEBを利用したシステムも導入し、子どもたちの安否情報を保護者の方へ届けられるようになっています。

● 給食はありますか？

ありません。
お客様の嗜好性や食の個性に合わせてお弁当をご用意ください。
※学内には、簡単なおにぎりやサンドウィッチを購入できる売店もあります。



中根 麻彩子 さん

明星学園高等学校を2019年3月卒業後、白百合女子大学 人間総合学部 発達心理学科へ進学。その後、白百合女子大学大学院 文学研究科 発達心理学専攻 博士課程(前期)を修了。2025年4月から東京都福祉局に心理職として就職。

安心して過ごせる環境が、 子どもたちの成長を支える

明星学園は、自分らしさを育ててくれた場所でした

安心できる環境は、人をよい方に変えられる。明星学園で過ごした日々を通じて私は、それを自然と学んできたように思います。

低学年のころ、日常の発見を発表する活動「みいつけた」が大好きでした。どんな話も先生や友だちがちゃんと聞いてくれる。伝えるって楽しい!と感じた体験は、「安心して考えを言葉にする」土台になりました。

小学校時代に出会えた和太鼓からも、たくさんの影響を受けています。教えのひとつ「心が音に出る」は、不思議だけれど、本当なのです。心の状態が演奏に表れているのを何度も実感して、心と体のつながりに関心をもつきっかけになりました。

異学年との交流が多いのも、明星学園ならではの。6年生になると1年生のお世

話を担当するのですが、小さい子が好きな私はたくさんの子と関わりました。最初は緊張していた子たちが少しずつ心を開いてその子らしさを見せてくれます。「頼られる嬉しさ」と「変わるきっかけ」を身をもって感じた場面でした。

心理学を学んだ今、明星学園は子どもが安心して自分を表現し、人とつながれる場だったと改めて思います。そんな学校だからこそのびのびと、自分らしさを育んでいける子が多いのだと思います。私自身はこの環境で支えられて育ったからこそ、今度は子どもたちが安心して自分を表現できる場を支える側にまわりたいと思うようになりました。4月からは、子どもに関わる心理士として働きます。明星学園で先生や友達に見守られ、支えられたように、今度は私が寄り添う存在になれたらと思っています。



田口 優兜 さん

明星学園高等学校を2023年3月卒業後、工学院大学 建築学部 建築デザイン学科へ進学。

問いから始まる学びを重ねた その経験が未来につながる

明星学園では、「どう考える?」と問われる場面が多くありました。正解を教えられるのではなく、自分たちで考え、意見を出し合いながら学ぶ。その姿勢が、自然と身につけていました。

授業は先生が「公式はこう」などと教えるのではなく、「どうやったら解ける?」と問いかけます。みんなで意見を出し合い、さまざまな方法を試す過程そのものが楽しかった。ものづくりでも同じです。卒業制作では、使う人のことを考えながら機能的な椅子を制作。仲間とアイデアを出し合い、工夫を重ねながら形にしたので、完成したときは達成感がありました。

大学で建築を学ぶ今、この「考え続ける力」が役立っています。建築には決まった正解がなく、試行錯誤しながら最適な形を見つけることが求められます。設計

課題では、教授とディスカッションを重ねながら、より良いものを追求する毎日です。小学校から学んできた「自分で考え、工夫しながら形にする」経験が、創造のペースになっていると感じます。

大学に進学して改めて気づいたのは、明星学園には本当に多様な考えを持つ人が集まっていたということです。大学では、建築を学ぶ人ばかりで、やはり似た価値観や視点を持つことが多い。でも、小学校ではさまざまな関心を持つ人たちがいて、お互いの考えを知る機会がたくさんありました。多様な視点に触れることで、自分の考えも深まるし、周りの意見を柔軟に取り入れる力も育まれました。

これからも、考え続けることを大切にしながら、より良いものを生み出していきたいと思っています。



創立時の生徒（小学1～3年生）と創立者たち



1960年代の高校校舎



1930年代の女学部 中央に座っているのは赤井園長

武蔵野の自然の中で、自主・自立を育み

子どもたちを主体的な学びへと向かわせる教育の場

明星学園は1924年（大正13年）に創立されました。赤井米吉、照井猪一郎、照井げん、山本徳行の4人の創立同人（教員）により小学校が開設されました。建学の教育理念は、『個性尊重・自主自立・自由平等』です。この教育理念の下で、明星学園独自の校風を築き上げ、100年余の歴史を刻み、今日に至っています。

大正デモクラシー運動高揚のなかで生まれた自由教育運動は、当時の管理主義的画一教育から子どもたちを解放し、子どもの個性や自主・自立を尊重する教育運動でした。

その代表的教育者の一人、成城小学校の沢柳政太郎に強い影響を受けた創立同人4人の、“武蔵野の自然のなかに子どもたちを解放し、自分達の理想を高く掲げた学校を開設したい”という熱き思いにより、明星学園は誕生したのです。したがって、建学の教育理念は、大正自由教育運動

を色濃く反映したものであり、その教育が子どもたちの解放をめざし、子どもを一個の人格として教育する人間教育として創立以来息づいている所以でもあるのです。

小学校開設のとき入学した最上級生の卒業にあわせて、1928年（昭和3年）に中学部（旧制中学校）と女学部（旧制高等女学校）が開設されました。また、中学部・女学部開設のため、上田ハリーが部長（校長）として参加しています。この中学部・女学部が戦後の学制改革で男女共学の中学校と高等学校に改組され、今日あるような学園の体制になりました。

戦中・戦後と幾多の世相の変化のなかで、明星教育も紆余曲折はありますが、その基本理念や初代校長の信条は今日まで一貫して流れ続けています。

明星学園は、小学校、中学・高等学校が設置されていて、12年間の一貫教育の体制をとっています。12年一貫の教育目標は「将来に夢と希望を持ち、主体的、創造的に力強く生きる人間の育成」です。個々の個性を尊重し、探究的な学びをとおして、自己を確立していくことを目指しています。

小学校で培った「知的好奇心・探究心・表現意欲」は中学・高等学校では「教養・自己表現・社会性」へと昇華され

ます。高等学校では選択授業を多く用意していて、自分の進路を考えながら履修することができます。

生徒主体の明星祭、音楽祭、豊かな国際交流イベント、職業体験などがあり、クラブ活動も盛んで、教科以外の活動も充実しています。一人ひとりに活躍の場が保障されています。探究的な学びは人間形成に欠かすことのできない体験です。



徒 歩

JR 吉祥寺駅 から 約15分

京王井の頭線
井の頭公園駅 から 約10分

バ ス

JR 吉祥寺駅 公園口、丸井前4番のバス停から「明星学園前」行（小田急バス）に乗車。終点「明星学園前」下車。約15～30分間隔で運行。

JR 三鷹駅 南口駅前から「三鷹の森ジブリ美術館経由 明星学園」行に乗車。終点「明星学園前」下車。約30分間隔の運行。

深大寺・調布・武蔵境 方面より「吉祥寺」行バスにて、「明星学園入口」下車。明星通りを徒歩。

約10分

約10分

約10分

明星学園小学校

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭 5-7-7

TEL 0422-43-2197 FAX 0422-47-6905 ウェブサイト <https://www.myojogakuen.ed.jp/>

MYOJO GAKUEN ELEMENTARY SCHOOL

5-7-7 Inokashira Mitaka-shi Tokyo Japan 181-0001 Telephone 0422-43-2197 Facsimile 0422-47-6905